

子どもと女性の健康相談室

61



福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター長
高橋 俊文氏

健康な一生のために

このコラムでは、子どもと女性に関する身近な医療の話題を提供してきました。今年度からは、

「福島県に住む女性が安心して子どもを産み、育て、そして健康な一生を過ごすための医療支援を

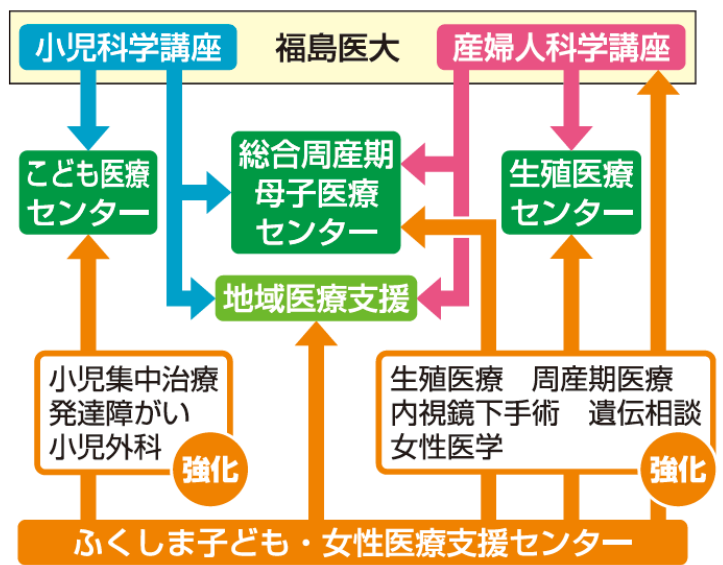
「福島県に住む女性が安心して子どもを産み、育て、そして健康な一生を過ごすための医療支援を

「福島県に住む女性が安心して子どもを産み、育て、そして健康な一生を過ごすための医療支援を

子どもと女性医療についての最新の話題を、各方面の専門医から分かりやすく紹介していただくことにしました。一回目は「ふくしま子ども・女性医療支援センター」について記します。

東日本大震災前から本県では、産婦人科、小児科の医師が不足していましたが、震災をきっかけに状況はさらに悪化しました。これに対して県は

センターの使命



人科、小児科医療のエキスパートで、福島県の復興に熱意を持ち赴任されたので、県内でも高い評価を受けています。

実績として特筆すべきは、二〇一六年からの五年間で延べ三六六人の産婦人科医師が新たに県内で診療に従事するのに関与したことです。また、産婦人科、小児科医療の質の向上として、産婦人科悪性腫瘍の腹腔（ふくろう）鏡下手術の普及、生殖医療センターのサポート体制の整備、小児集中治療室の設立、発達障害児の診療の充実などに取り組んできました。概要は【図】の通りです。

センターは、産科婦人科学講座、小児科学講座、小児外科と密接な連携を取りながら、地域医療、医療教育、学内医療の支援に携わっており、「福島県に住む女性が安心して子どもを産み、育て、そして健康な一生を過ごすための医療支援」を行っています。